

# WONCA世界大会に参加して

\*1板東 浩 ばんどう ひろし  
 \*2青山 英康 あおやま ひでやす  
 \*3津田 司 つじたつかさ  
 \*4小松 真 こまつ まこと  
 \*5山田 隆司 やまだ たかし  
 \*6川久保 亮 かわくぼ しょう  
 \*7空地 啓一 そらち けいいち  
 \*8葛西 龍樹 かさい りゅうじゅ

## はじめに

わが国では、長年、プライマリ・ケア（PC）の必要性が強く叫ばれている。一方、諸外国では、PCを担う家庭医（FP/GP）は重要な地位を占め、家庭医が集う世界的学会として、WONCA（World Organization of Family Doctors）が早くから活発な国際的活動を行っている。日本プライマリ・ケア学会（日本PC学会）はわが国を代表するWONCAの構成メンバーとして、アジア太平洋地域で指導的役割を担っている。

このたび、WONCA世界大会が、一九九八年六月十四～十八日に、アイルランドのダブリンで開催されたので、概要を報告するとともに、二世紀初めに日本で開催予定の国際会議についても触れる。

## 学会の概要

ロンドンから空路約一時間で、アイルランドのダブリンに到着。空港から一五分ほどタクシーを走らせて学会会場へ。緑豊かな広い敷地と施設はダブリン市が所有し、国際会議など様々なイベントに利用されている。

開会式では、同国の女性大統領であるMary McAleese氏が挨拶されたが、ユーモラスで立派なスピーチはとても印象的であった。今回のテーマは、「人々と彼らの家庭医—ケアのパートナーとして」であった。教育講演では、患者と家庭医の理想的なパートナーシップ、健康へのチャレンジ、患者によるケアの質の定義、Evidence Based Medicine、地域社会の医療制度、電話によるナーズのケア、時間外診療などが行われた。

## 委員会活動の方針と資金に関する報告などが主体であった。

今回、委員長の交替があったが、今後も参加各国が協調して質の高いプライマリ・ケア研究を推進すべく、さらなる活動の発展を確認した次第である。

なお、WONCA分類委員会の詳細は、現在インターネット上にも左記のサイトで公開されている（http://www.ulb.ac.be/esp/wic/）（山田隆司）。

## APACE

六月十四日朝、WONCA会場（APACE）設立準備委員会が開催され、日本PC学会から葛西が、三役の一人Honorary Treasurerとして出席した。

APACEは、これまでWONCA Asia Pacific Working Party（APWP）と呼ばれていた集まりを、アジア太平洋における家庭医療学専門医教育のレベルを高く維持し、共通の問題を話し合うために新たに学会として発展させるもので、長くその設立が待



WONCA世界大会におけるポスター発表の光景

## まとめ

今回の世界大会はプログラム構成においても学会運営においても決して秀れたものとはいえず、ヨーロッパ規模の地域大会といった感じであった。

Conclor meeting（WONCAの最高議決機関）において、今回はアジア・太平洋地域からということでもシンガポールが立候補したが、アイルランドに敗れた。二〇〇四年の大会についても、アメリカに対抗してシンガポールが立候補したが敗れた。いずれもプレゼンテーションはシンガポールのほうが数段秀れていたにもかかわらずである。しかし、これが現在の国際状況といえる。

WONCAの活動としては、アジア・太平洋地域が、いずれの分野でも指導的役割を演じている現状を見る時、矛盾を感じざるを得ない。それだけにわが国の果たすべき役割は大きく、二〇〇五年に我が国で開催する地域大会は世界大会並みの質の高い企画と運営にしたいものである（青山英康）。

（\*1日本プライマリ・ケア学会国際交流委員会 委員長 \*2会長 \*3医学部長 \*4副会長）

参加者は非常に多く、事前登録者数だけでも三八〇名以上。メイン会場には、大ホールと小さな会議室が多く設置され、ワークシヨップやシンポジウムが数多く行われた。発表数は、ポスターやワークシヨップ、シンポジウムをあわせると約一五〇〇に達し、抄録集はずっしりと重たかった。日本PC学会からは四〇名以上が参加し、福本、大頭、久保田、白井、葛西、山田、石川の各氏が発表を行った（板東浩、小松真）。

## 学会参加の印象

日本PC学会は、アジア太平洋地域WONCAの中で指導的役割を有しており、今回のWONCA世界会議は、アジア太平洋地域WONCA会議の日本での開催に関して、前哨戦という意味があった。WONCA会員の三五％がアジア太平洋地域に属しているの、わが国での開催は大きな責任と意義がある。

PCを担う家庭医の呼称として、諸外国では、従来、family physician（F.d）やgeneral practitioner（G.d）という用語が使用されてきた。近年になって、WONCAは、family doctorを使

## たれていたものである。

今回の設立準備委員会には、WONCAアジア太平洋地域に属する各国から、それぞれの学会で教育に熱心な委員が出席した。APWPでは、いまままで「カリキュラムと認定医試験」（一九九三年・フィリピン）、「臨床教育」（一九九五年・マカオ）、「研究方法」（一九九六年・マレーシア）、「評価」（一九九七年・韓国）をテーマとして、家庭医療学のワークシヨップ・シリーズを開催してきた実績があり、今後APACEとしてさらに活発な活動が展開されることを期待されている。

## 実際には、来年三月に台湾で開催されるWONCAアジア太平洋地域学術総会の場で、APACEを設立させることが確認された。

新たに委員長にはシンガポールのDr.Goh Lee Ganが、日本、韓国、中国、台湾、香港、マカオで構成する「北部アジア太平洋地域」の幹事には葛西が選出された。今後、だれが会員になるのか、どのような活動をするのか、会費をどうするか、学術雑誌をどう刊行するかなど、具体的な設立・運営に向けての条件整備が進められる予定で

用している。今後、日本での呼称を、プライマリ・ケア医を含め、国際舞台に通用する呼称に統一する必要があると感じられた。

会場については、多くのブースを設けたり、コンピュータコーナーで自由に検索ができるなど様々な工夫が見られた。しかし、マイクが聞こえなかったり、ワークシヨップが行われた各部屋の防音が不完全であったり、バス運行のスケジュールがはつきりしないなど、改善すべき点もあると思われる（小林之誠、川久保亮、空地啓一）。

## 分類委員会

分類委員会は、WONCAの中の委員会では最も活動的な委員会である。これまでもICPC（プライマリ・ケア国際分類）、ICHP（プライマリ・ケア健康問題国際分類）、ICP（プロセス—PC）（プライマリ・ケア診療行為分類）等の出版物を刊行し、今春もICP-2（プライマリ・ケア国際分類第二版）を刊行したばかりである。

現在、欧米を中心におよそ三〇カ国から四〇名程の委員がおり、毎年五日間程に互る委員会を開

## ある（葛西龍樹）。

## ■日本がWONCA国際学会を主催

WONCA学会は三年に一度開催されることになっており、今回は二〇〇一年に南アフリカ共和国のダーバンで、そして、二〇〇四年には米国フロリダ州で行われる予定になっている。

この世界大会の合間をぬって、アジア太平洋地域大会が開催される。次回一九九九年は台湾、二〇〇〇年はニュージーランド、二〇〇二年はマレーシア、二〇〇三年は中国の予定である。そして、二〇〇五年には、日本が主催国になることが決定された。

評議員会では開催地として京都を望む声が強かった。また、費用のあまりかからない大会にして欲しいという要望も出された。今後、早急に準備委員会を結成していく必要がある。

このように、今後国際学会を主催するためには、国内の整備が必要である。つまり、世界のスタンダードとしてのfamily practice / general practiceをPC学会のメンバーの一人として検討していく必要があると考える（津田